

「根は深く、翼は広く」 青山高校の卒業生に寄せて

卒業生の皆さん、おめでとうございます。保護者の皆さん、今日の日を迎えられたお喜び、ご安堵はいかばかりか、と存じます。小澤哲郎校長をはじめ教職員の皆さん、3年間にわたり一緒に歩んでこられました。ありがとうございます。地域の皆さん、卒業生たちを見守り続けていただきました。感謝いたします。

皆さんは4月から、青山高校の同窓生になられます。この舞台袖の幕にある「東京都立青山高等学校同窓会」の会員になります。同窓会を、同窓生を代表して、仲間になる皆さんに、お話をさせていただきます。

ノーベル賞の医学・生理学賞を受賞された本庶佑先生の記念講演とシンポジウムが先週土曜日、東京・有楽町で開かれました。私が関係している公益財団法人と新聞社の主催で、お願いしたものです。聴衆には高校生も招いていました。本庶さんは彼らに向けて、こう呼びかけました。

「自分の頭で考えなさい」「人ときちんと議論できるようになりなさい」。

こうも付け加えました。「先生のいうことを頭から信じてはいけない」「教科書を鵜呑みにしてはいけない」。これは、がんの免疫療法で独創的、画期的な発見をされた本庶先生だから言えることでしょうが、自分をも乗り越えてください、という激励でもあるのでしょうか。

「自分の頭で考える」「きちんと議論ができる」人になるにはどうすればよいのか。とても難しいことです。私はこれまで、新入社員や若い世代の後輩に、また大学や大学院で講義をする機会に、「根はできるだけ深く」「翼はできるだけ広く」と話してきました。

根が深くなれば、土台がしっかりします、軸がぶれません。

私は大学では経済学を専攻し、新聞社の論説委員として経済社説も書いてきました。エコノミストというには、はばかりますが、色々なことを考える時に、経済的な視点、分析は大切だと思っています。高校3年のときにいわゆる「ドルショック」がありました。名目的になっていたとはいえ、ドルと金との交換が停止されました。外国為替の「固定相場制」が崩れ、現在に至る「変動相場制」の時代に向かいました。経済学を学ぼうと考えたのはその時です。

皆さんはこの先、大学で、法律や経済学、文学、あるいは化学や工学、医学などを学ばれるかと思えます。社会に出てからは、企業や金融機関、あるいは公務員、研究所で働く、法曹関係につき方もいるかも知れません。自分の専門分野を深く、深く掘り下げてください。根を深く、深く、伸ばしてください。

翼が広がれば、高く飛べます。遠くまで行くことができます。何より人生が豊かになります。

翼を広げるにはどうすればよいのか。多くの人と会うことです。話をしっかり聞く、議論をすることです。色々なジャンルの本を読み、世界を知るために新聞を読んでください。映画を見ても、音楽を聴くのもよい。古典芸能の能、文楽、歌舞伎を鑑賞するのも、もちろんスポーツも、です。

「リベラルアーツ」という言葉があります。日本では大学の教養課程、広く一般教養という意味合いでもあります。最近はあまり使われなくなっているのが、とても残念ですが。「リベラルアーツ」の概念は、ギリシャ・ローマの時代までさかのぼり、13世紀に誕生したヨーロッパの大学の

教育でも、すでに必須のものとされていました。

振り返ると、高校の時代は「リベラルアーツ」の入口でした。

米国の生物学者のレイチェル・カーソンが半世紀以上前に「沈黙の春 (Silent Spring)」という本を出版しました。人間がつくった化学物質、この場合はDDTですが、自然を破壊している、春になっても野鳥のさえずりが無い「沈黙の春」になっている、という警告の書です。世界的なベストセラーになりました。いまでは、鳥のさえずりが聞こえなくなった原因は、化学物質だけではなく、人間がかかわる様々な要因が重なっている、とされています。

私は社会人になってから、まず翻訳で、それから英語版で読みました。その時に、この「Silent Spring」が高校時代の英語の教科書に引用されていたことを思い出しました。

美術の授業で、こんなことがありました。東京芸大を卒業したばかりの女性の先生が、「ようやく買うことができた」と、ムンクの画集を持ってきてくれたのです。あの有名な「叫び」を見たのはそれが初めてでした。その後、オスロの国立美術館で、また昨年秋に上野の都立美術館で、「叫び」を見ると、高校時代の美術の授業が蘇ります。その美術の先生はいつも、毎年、同窓会の総会・懇親会に出席されています。

京都大学の文化人類学者、梅棹忠夫の「知的生産の技術」がベストセラーになったのも、ちょうど高校時代でした。フィールドワークでの記録、分析、研究に活用した、そのB6版の「京大型カード」は、学生や研究者から、サラリーマンにまで流行りました。私も早速、真似事をしてみました。この「知的生産の技術」は、このカード方式の整理、活用方式は、iPadやエクセルの時代になって、再び見直され、すたれていません。

「万葉集」「論語」との出会いも、微分積分、数学のエレガントな解の面白さに触れたのも、高校時代でした。「リベラルアーツ」の入口は、まさに高校時代の教科書、授業でした。

「根を深く」「翼を広げる」と同時に、忘れてならないのはリスペクトです。敬意を払う、ということです。知性へのリスペクト、歴史へのリスペクト、何よりも人間に対するリスペクト、自分を取り巻く人たちへのリスペクトを忘れないでください。

公職選挙法が3年前に改正され、選挙権の年齢が18歳に引き下げられました。この4月には統一地方選挙があり、夏には参議院議員選挙、国政選挙があります。成人年齢を18歳に引き下げる改正民法が昨年成立し、3年後の2022年4月に施行されます。その意味では、皆さんはすでに、実質的には成人、大人です。「ヤングアダルト」と呼ぶべきだと思います。

皆さんはこれから、春秋に富む人生を歩むことになります。根を深く伸ばし、翼を大きく広げ、いつもリスペクトの気持ちを忘れずにいてください。本庶先生の言葉を借りれば、「自分の頭で考え」「きちんと議論ができるように」なってください。そして、新しい世界、時代を切り開き、価値ある、豊かな人生を歩んでいただきたい。心からそう願い、期待を込めて、皆さんへのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成31年3月15日 平成最後の卒業式の日
東京都立青山高等学校同窓会会長
後藤尚雄